

経営比較分析表（令和4年度決算）

香川県三豊総合病院企業団 三豊総合病院

法適用区分	業種名・事業名	病院区分	類似区分	管理者の情報
条例全部	病院事業	一般病院	400床以上～500床未満	その他
経営形態	診療科数	DPC対象病院	特殊診療機能 ※1	指定病院の状況 ※2
直営	29	対象	ド透1訓ガ	救臨が感へ災地輪
人口（人）	建物面積（㎡）	不採算地区病院	不採算地区中核病院	看護配置
-	44,942	-	第2種該当	10:1

※1 ド…人間ドック 透…人工透析 I…ICU・CCU 未…NICU・未熟児室 訓…運動機能訓練室 ガ…ガン（放射線）診療

※2 救…救急告示病院 臨…臨床研修病院 が…がん診療連携拠点病院 感…感染症指定医療機関 へ…へき地医療拠点病院 災…災害拠点病院 地…地域医療支援病院 特…特定機能病院 輪…病院群輪番制病院

許可病床（一般）	許可病床（療養）	許可病床（結核）
458	-	-
許可病床（精神）	許可病床（感染症）	許可病床（合計）
-	4	462
最大使用病床（一般）	最大使用病床（療養）	最大使用病床（一般+療養）
458	-	458

グラフ凡例	
■	当該病院値（当該値）
—	類似病院平均値（平均値）
[]	令和4年度全国平均

公立病院改革に係る主な取組（直近の実施時期）

機能分化・連携強化 (従来の病棟・ネットワークを基盤)	地方独立行政法人化	指定管理者制度導入
-	-	-
年度	年度	年度

I 地域において担っている役割

当院は、西部保健医療圏である観音寺市、三豊市における中核病院であり、地域住民へ安心・安全な医療を提供することを使命としており、急性期病院としての救急医療や高度・先進医療の提供、がん診療、手術治療、地域医療支援病院としての地域医療連携の推進などの役割を持つ。

II 分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

新型コロナウイルス感染症の影響を受けて病床利用率は令和2年度に大きく低下したが、令和2年度を底に僅かではあるが上昇傾向にある。また、入院単価、外来単価が増加傾向にあるため経営収支比率は100%以上を維持できている。ただし、入院単価、外来単価ともに類似病院とは開きがあるため、先進、高度医療機器の導入、手術件数（特に全身麻酔症例）の増加、スタッフの増員などにより、単価アップの余地はあると考える。材料費対医療収益比率については類似病院が増加傾向にある中、当院は比率を維持できている。

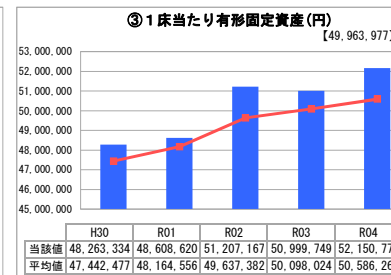
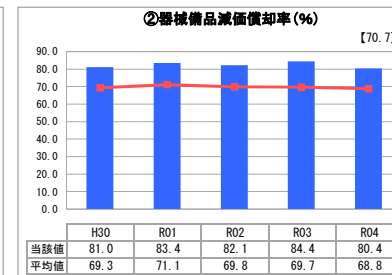
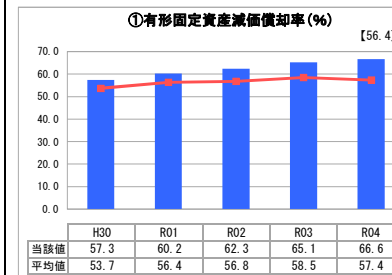
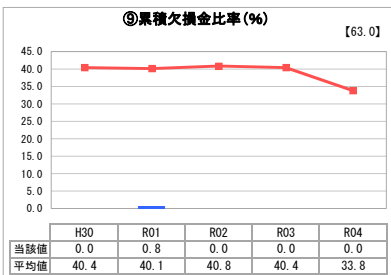
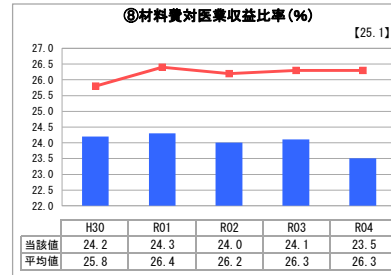
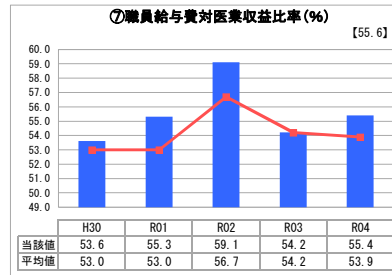
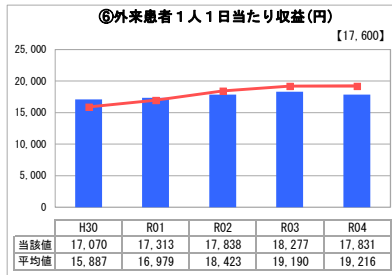
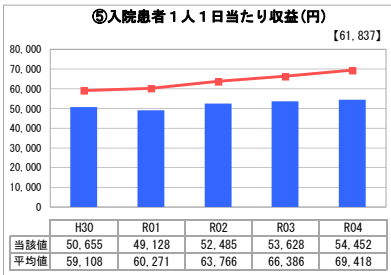
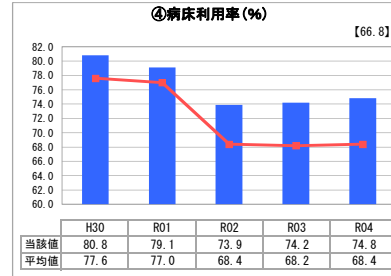
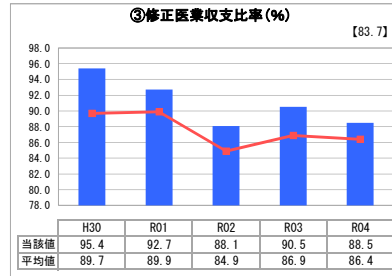
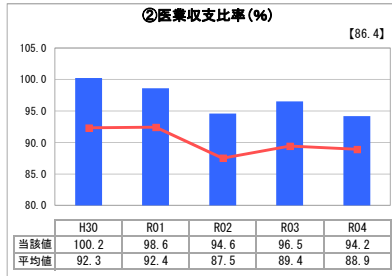
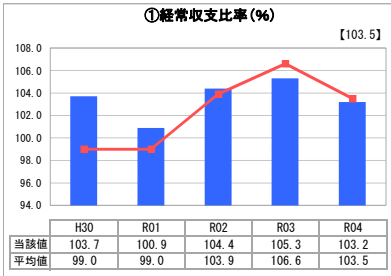
2. 老朽化の状況について

平成25年に大規模な建物の新築改修工事を実施、令和4年度末には健診棟を建て替えている。機械備品に関しても健診棟の建て替え時に高精度放射線治療装置を導入。建物は大規模な建て替え、機械備品は高額な医療機器を導入したことにより、減価償却率は今後一時的に低下すると思われる。このほか令和4年度購入の高額医療機器として、内視鏡画像ファイリングシステム、一般X線撮影装置、生体情報モニタ用サーバーが挙げられる。

全体総括

当院の使命である地域住民へ安心・安全な医療を提供するためには、24時間365日の救急医療体制の継続、医師をはじめとした医療スタッフの確保、先進・高度医療機器の導入などが必要である。そのためには、今後もこれまで同様、健全経営を維持することが必須であり、無駄のない効率的な経営がこれまでに以上に求められる。人口減少などにより患者数の増加が見込まれない現状、請求漏れの削減などいかに収益単価を増やすか今後の課題であり、出来るだけ医療機器等の無駄のない購入を行なう努力も必要である。

1. 経営の健全性・効率性



※「類似病院平均値（平均値）」については、病院区分及び類似区分に基づき算出している。